

2011年1月28日

ご参考資料

楽読
(ラクヨミ)

Vol.342

利上げとともに注目される新興国通貨

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

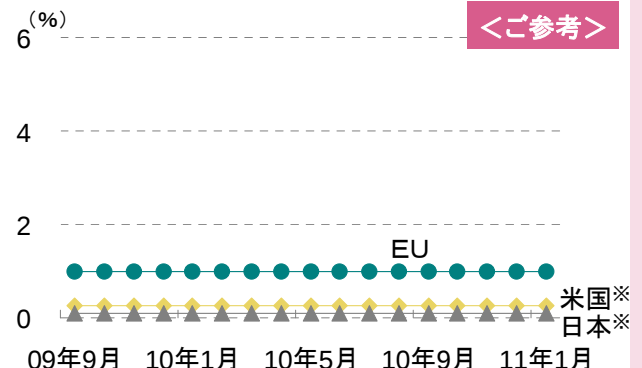
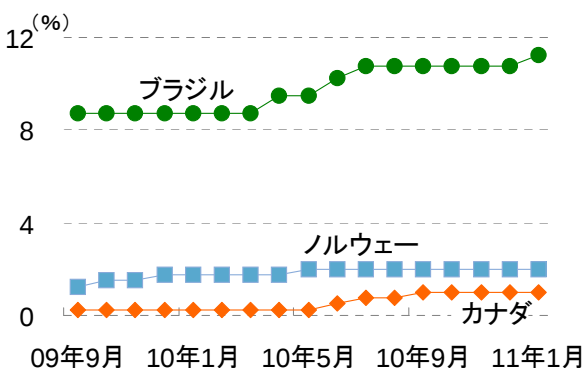
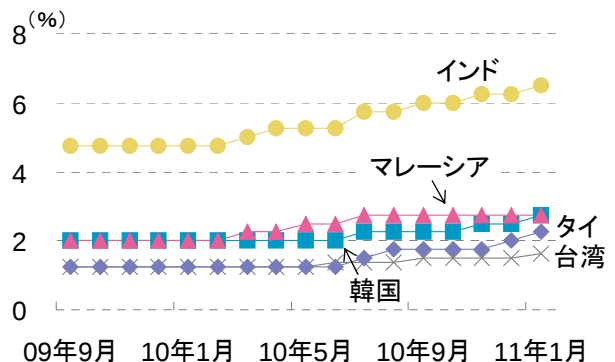
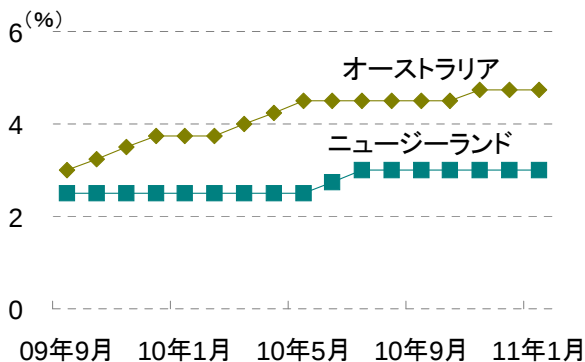
景気の強まりや物価上昇などを受け、特に新興国における利上げが相次いでいます。その一方で、米国や日本では景気回復の遅れから、当面の間、低金利が続くとみられており、新興国との金利差は拡大する傾向にあります。そうした景気や金利の「差」に着目した投資が活発化する中、日米の金融緩和によって生じた投資資金の一部も加わり、新興国通貨を押し上げる要因となっています。

足元の新興国ではインフレに対応した利上げが、投資資金の流入を加速させ、資産価格などの上昇に結びつくリスクが懸念されていることに加え、利上げが継続するようであれば、経済成長に水を差す可能性も警戒されています。一方で、利上げなどによって生じる自国通貨高は、輸入物価の低下などを通じて国内物価を抑えるインフレ対策の一つとなることから、ある程度の通貨高を容認するような政策がとられるとの見方もあります。

各国中央銀行は難しい金融政策を迫られているといえますが、持続的な経済成長を維持するために、各国において利上げの時期やその幅は引き続き適切に判断されると考えられます。そのため、好調な経済成長見通しと金利差の拡大などを背景に、新興国通貨への注目度は増していくとみられます。

■2009年9月以降利上げを行なった主要国の政策金利の推移

期間:2009年9月～2011年1月※ ※1月は26日まで



<ご参考>

※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません

※米国は0～0.25%、日本は2010年10月より0～0.1%程度

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。